

乳幼児睡眠用製品に共通する安全基準によるリスクと対応

リスク	製品※1	安全基準における対応
1. 強度・耐久性不足による製品の崩壊	ベバスガ ガス	十分な強度・耐久性があること（日米欧とも、それぞれの製品ごとに強度、耐久性基準を設定） しっかりと取り付けることができること（米欧）
2. 頭部、身体の挟まり、すり抜け	ベバス ガ	棧の幅（米 60mm 以下、欧 65mm 以下、日 85mm 以下） 3～4 か月児 3%タイルの推測値は、胴体厚 55-60mm、臀部 60-65mm、頭部厚 85-90mm※2 頭部がすり抜けない（米 89mm）
3. 転落・落下	ベバスガ ベバ	バシネット（5 か月児まで）においては壁面高さが約 20cm 以上 ベビーベッドは壁面高さが床板最定位で（欧：マットレス上面から 50cm、米：床板から 66 cm、日：床板から 60cm）以上、床板最高位（つかまり立ちする前）で（欧：マットレス上面から 20cm、米：床板から 23 cm、日：床板から 35 cm）以上。足かけとなるものを作らない。 ベッドサイドスリーパーは、対象月齢に応じてバシネット・ベビーベッドに準じる ベッドガードは、対象が 18 か月児以上で 16cm 以上（滑り落ちは許容） 前扉を開いても転落しない。
4. 窒息（マットレスへ等の密着他）	ベバスガ バ	マットレスに一定の硬さがある。 柔らかいものをベビーベッド、バシネットに入れない。 幼児が顔を下向きにしても戻りやすい（米欧：リクライニング角度が 10° 以下）
5. マットレスとの間の隙間による窒息	ベバス ガ ス	危険な隙間がないこと（マットレスを端に寄せたときに、米国 1inch(25.4mm)、欧州は 25mm） を超える隙間ができない。 マットレスとの隙間（英は 40mm） 、（米国 69mm×114mm のトルソープローブを差し込む）親ベッドとの間に危険な隙間ができないこと

6. 指はさみ	ベバスガ	指を挟み込む危険な隙間がないこと（米、5.5-9.5mm、欧 7-12mm 英 5-12mm、日 5-13mm）
7. 柔らかいものや拘束具等による窒息	ベバス バ	幼児が寝る際に毛布、ぬいぐるみ、掛け布団の使用を禁止（欧米） 拘束具は取り外す、あるいは、覆う（米） ひも、コードは、身体に絡まない長さにとどめる。
8. 突き出し部のひもの引っ掛かり	べ、ガ	突き出し部分はひもなどの引っ掛かりがないこと。（日本は突き出し高さ 15 mm以下）（英国ボールチェーンで確認）（米国リンクゲージとウエイトゲージで確認）

※1 ベ：ベビーベッド、バ：バシネット、ス：ベッドサイドスリーパー、ガ：ベッドガード

※2 胸囲 $\approx \pi \times (\text{胸幅} + \text{胸厚}) / 2$ 胸幅は EN, CDC の平均の 13-14cm として胸厚を推計。胴体厚 $\approx$ 胸厚。臀部は胴体厚+5mm として計算。頭幅は頭囲 $/ \pi \sim$ 頭囲/3 として推計